

姉崎地区福祉行動計画

(平成30年度～平成33年度)



姉崎地区行動計画策定委員会

● 計画策定の趣旨

昨今、様々な生活・福祉課題が顕在化する中、国においては必要な法制、施策（改正介護保険法・生活困窮者自立支援法・社会福祉法人制度改革など）が打ち出され、同時に公的サービス・福祉だけでは対応できない課題解決に向けては、地域の住民主体による「地域全体で支える仕組み」づくりが期待されております。

市原市においては地理的条件・人口構造・産業構造・交通アクセスなどが大きく異なり、加えて近年の社会情勢の変化に伴い、福祉・生活課題も複雑・多様化している中、地域ごとの課題・ニーズも異なっています。したがって、従来の全地区（市域）を対象とする画一的な取り組み、手法、事業では解決できない課題が現れてきています。

そこで「市原市地域福祉パートナーシッププラン（市原市策定）」及び当計画と連携し、地域住民が主体となって取り組む地域福祉活動を具体的に計画化した「第5次地域福祉活動計画（市社協策定）」において、中域福祉圏の推進主体として位置付けられている「地区社会福祉協議会」が主体となり、地域の関係者の方々と構成する「姉崎地区行動計画策定委員会」を設置し、それぞれの地区の地域づくりの指標となる「地区行動計画」が計画されました。

● 計画策定の意義

1. 地域住民やその地域にある組織・団体等関係者が、地域課題や地域づくりの目標・方針を共有し、同じ方向を向いて取り組むことが容易になる。
2. 計画策定の過程を通じて、地域関係者の相互理解と連帯感、また、小域福祉圏の中心的主体である「小域福祉ネットワーク」との協働体制のあり方や役割の明確化につながる。
3. 重点的（優先的）な取り組み内容が明確化され、中・長期的な見通しをもって、段階的・継続的に取り組むことができる。

● 計画の期間

この計画書の計画期間は、平成30年度から平成33年までの4年間とします。ただし、新たな課題やニーズなどが明らかになり、基本的な部分で見直しが必要となった場合は、計画期間中であっても見直すこととします。

● 策定にあたっての留意点

地区行動計画は、つくることが目的ではなく、計画の策定段階で改めて地域の実情を確認すること、地区の課題を考えること、地域・構成団体間で様々な議論を行うなど過程が重要であり、そのことで地域福祉活動推進のきっかけとなります。

また、この計画は、地区社協構成員（組織の主体）がその地区の総意をもって策定され、地区社協構成員がその計画に基づいて活動するものであることから、地区社協構成員の視点で策定されることが重要な点です。同時に活動主体の自発性に支えられた計画であることから、実効、実行性の高いものにする必要があります。

平成30年7月1日

姉崎地区社会福祉協議会	会 長	相川 敏子
姉崎地区行動計画策定委員会	委員長	桃尾 英宣
	副委員長	黒川 実男

目次

1. 計画策定にあたって

(1) 計画策定の背景と趣旨	1
----------------	---

2. 姉崎地区の現状と課題

(1) 地域の現状	2
(2) 課題抽出シート	4
(3) 地域で抽出された課題	5

3. 計画体系

(1) 基本理念 課題の分類	8
(2) 計画体系シート 基本目標	9

4. 事業実施計画書

(1) みんなで支え合い助け合える地域づくり	10
(2) みんなの生活を支えるための体制づくり	11
(3) みんなが安心安全に暮らせるまちづくり	12
(4) みんなが暮らしやすい環境づくり	13
(5) みんなの顔がつながる仕組みづくり	14
(6) みんなで取り組むための基盤づくり	15
(7) 平成30年度姉崎地区社協研修計画	16

5. 計画の進行管理 17

6. 資料編

(1) 計画策定経過	17
(2) 姉崎地区行動計画策定委員会委員名簿	18

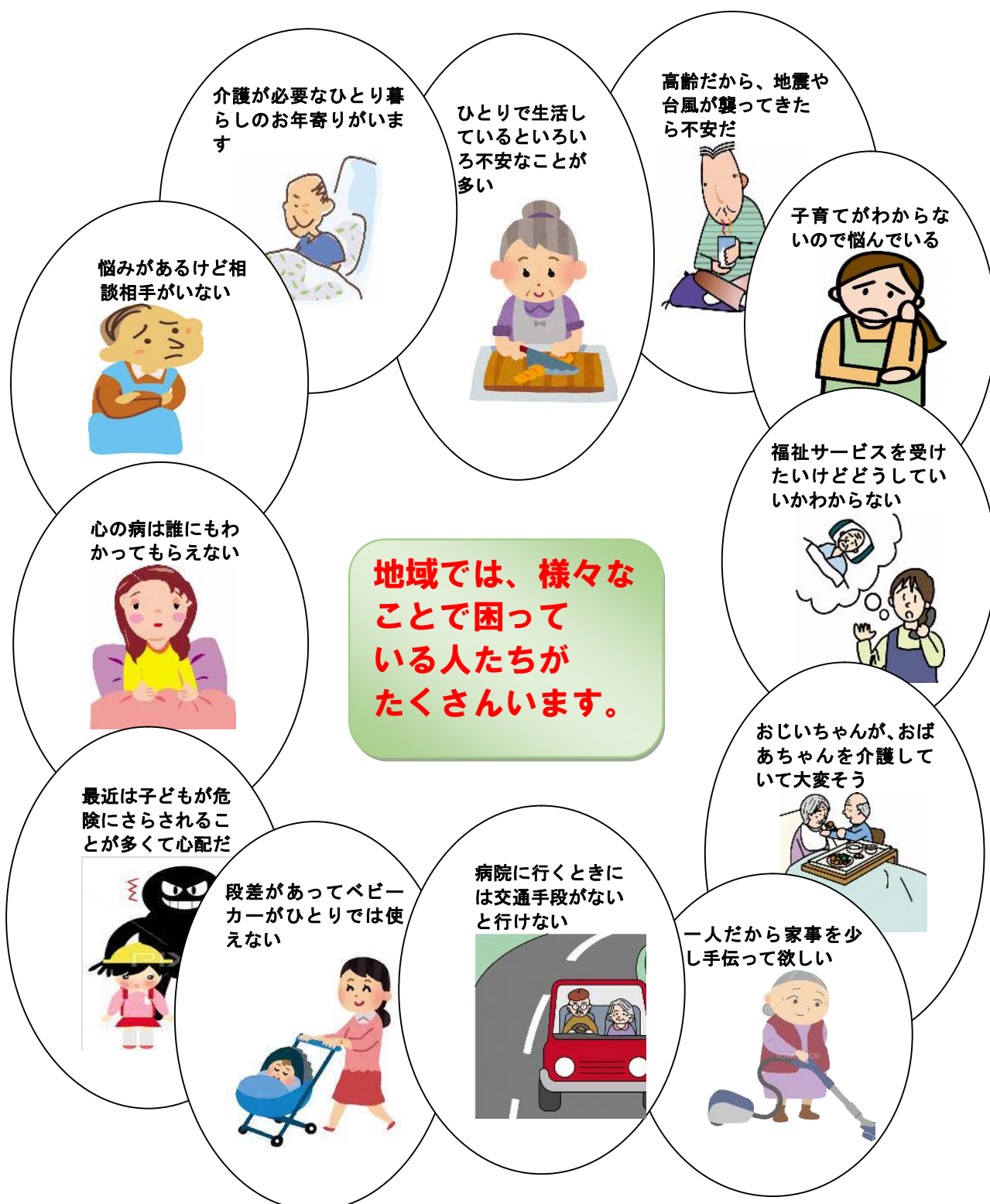
1. 計画策定にあたって

(1) 計画策定の背景と趣旨

近年、少子高齢化、核家族化などにより家族機能が低下し、加えて、隣近所で助け合い・支え合う「地域のつながり」も弱くなっています。

また、様々な要因で、ひとつの家庭で複合的に課題を抱える世帯も増加し、それも複雑・多様化し、従来の公的福祉サービスだけでは対応できない現実があり、「地域全体で助け合い、支え合う力」が求められています。

今、地域では多くの住民が助け合い・支え合いを必要としています。



2. 姉崎地区の現状と課題

(1) 地域の現状

① 地域の特徴

姉崎地区は市原市の南西部に位置し、五井地区、市原地区について多い25,035人（H29.5.1）が暮らしています。

歴史は古く、もともとは宿場町として栄え、姉崎神社に代表される1,300余年の伝統ある地区を中心に商店、農家が存在する一方、海岸では貝や海苔の浅海養殖が盛んでした。

そして、1960年代頃から京葉コンビナートの誘致によって、海が埋め立てられ、石油精製、石油化学、火力発電などの大企業・工場が集中し、伴って青葉台などの住宅団地も形成されました。

青葉台団地は開発されてから相当の年月が経ち、他地区と比べ高齢化率は高く推移していることから、平成6年から住民相互の助け合い活動組織を発足、現在では法人化し、様々な活動に積極的に取り組んでいます。また、平成17年11月から地元住民が運営するコミュニティバス「あおばす」が運航されています。

この地区は、臨海部、都市部、住宅団地、旧来の農業地と多様な地域性を持つ地域であり、それぞれの地域毎に生活・福祉課題は異なるものの人口動態は他地区と比べ変化が少なく、当然、世代交代はあるものの長年にわたり住み続けている住民が多い地域であると言えます。

区分	市全体	地区全体	姉崎小学区	明神小学区	青葉台小学区
人口(人)	278,468	25,035	6,912	9,401	8,722
若年者人口 (15歳未満)	28,841	2,198	641	861	696
若年者人口割合(%)	10.4	8.8	9.3	9.2	8.0
高齢者人口65歳以上(人)	75,511	7,479	1,805	2,525	3,149
高齢者人口割合(%)	27.1	29.9	26.1	26.9	36.1
一人暮らし高齢者数(人)	17,225	1,785	482	766	537
高齢者のみ所帯数(所帯)	31,986	3,343	794	1,192	1,357

※上記の数値は、小学校区域の数値となりますので、行政区の数値と異なります。

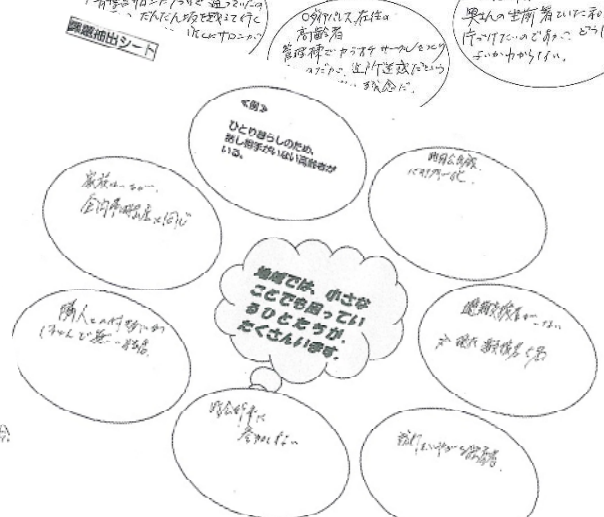
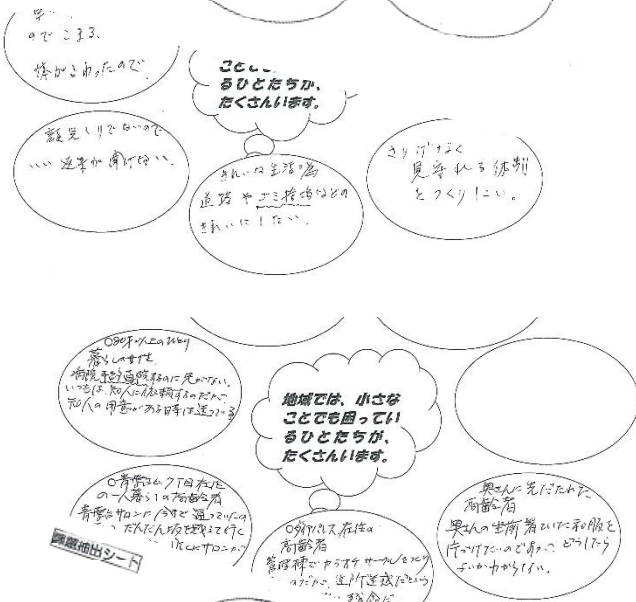
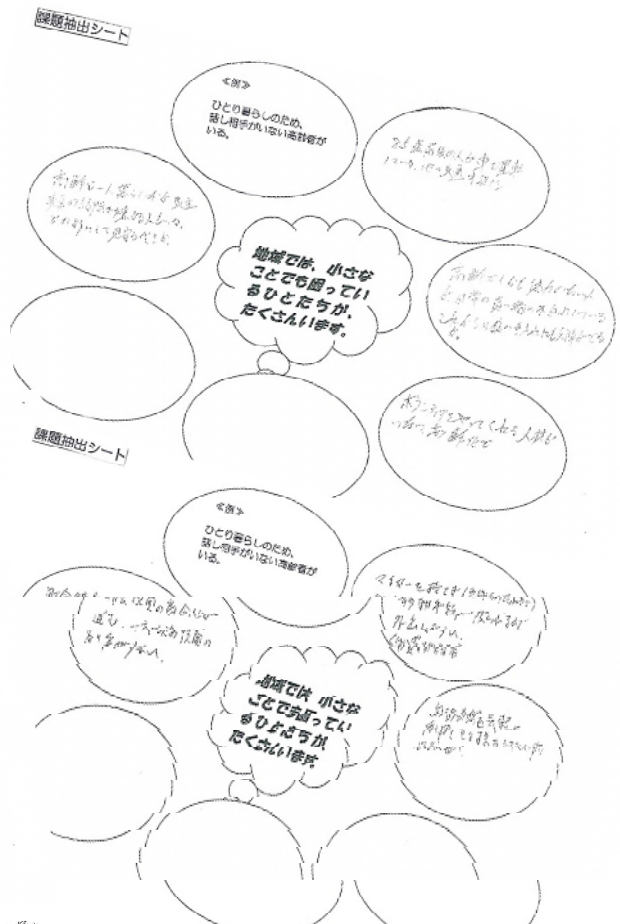
② 地域の社会資源

分野	整備状況（設置数）
福祉	高齢者福祉：地域包括支援センター(1)/特別養護老人ホーム(1)/ケアハウス(1)/グループホーム(1)/シルバー人材センター(1)/ 障がい者福祉：知的障がい者施設(2)/身体障がい者施設(2)/精神障がい者施設(1)/ 保健福祉：保健福祉センター(1)
子育て・教育	保育所(5)/幼稚園(4)/子育て支援センター(1)/小学校(3)/中学校(2)/ 高校(公立高校1)/放課後児童クラブ(5)
防災	消防署(1)/避難場所(小学校3、中学校2、高校1、公園2)/避難所(公民館1)/ 福祉避難所(特別養護老人ホーム1、ケアハウス1、保健福祉センター1))
行政・ コミュニティー	支所(1)/公民館(1)/町会・自治会(39)
商業施設	コンビニエンスストア(16)/ホームセンター(1)/スーパーマーケット(4)
医療機関	総合病院(1)/診療所(18)/薬局(20)/歯科医院(14)
交通機関	駅(JR1)/バス路線(12)/福祉有償運送(2)
金融機関	銀行(銀行2、信用金庫1、JA1)/郵便局(3)

③地域で行われている主な活動

	姉崎地区社協	姉崎小学校区 小域福祉 ネットワーク	明神小学校区 小域福祉 ネットワーク	青葉台小学校区 小域福祉 ネットワーク
高齢者	○ふれあいサロン事業 (会食会・茶話会)	○交流サロン活動 (交流会・健康講座) ○地域福祉支援事業 (歳末の見守り訪問活動)	○健康講座 (介護予防)	○見守り支援活動 (見守り声かけ運動)
子ども	○子育てサロン	○児童下校時見守り活動 ○世代間交流活動 (昔遊び、学校支援事業)	○児童下校時見守り活動 ○世代間交流活動 (昔遊び、学校支援事業)	○世代間交流活動 (農業体験、学校支援事業)
障がい者	○福祉教育 (バリアフリー体験)			
地域	○広報紙発行 (そよ風) ○福祉バザー事業 ○小域福祉ネットワーク連絡会議 ○相談支援事業 (相談窓口開設)	○広報用チラシ発行 ○広報紙発行 (きずな) ○地域あいさつ運動		○交流サロン活動 (交流会、講座、健康体操、福祉相談)
環境			○環境整備活動 (資源回収)	
防災 防犯		○防災・防犯啓発活動 (防犯講座、危険箇所・避難場所調査) ○見守り支援活動 (福祉医療情報キット配布) ○フードバンク支援活動 (防災活動の啓発)	○見守り支援活動 (福祉医療情報キット配布) ○フードバンク支援活動 (防災活動の啓発)	○フードバンク支援活動 (防災活動の啓発)

「第1回 姉崎地区行動計画策定委員会」において、各委員より日頃の活動の中で課題となっていることを記入しました。



(3) 地域で抽出された課題

地域社会

- ① 開かれた地域社会；外部から移住してきた人が心地よく地域活動に参加できる仕組みになっているか。付き合いの長い人だけが集まる「村社会」になっている。
- ② 組織間交流；所属組織や既存の枠組みを超えられる地域社会になっているか。
- ③ 意見の相違から新しい価値観の創造；メンバー間の対立、意見の違い、対立を発展させることなく、それぞれの見方、知識、スキルの強みや特徴を繋いで、新しい価値を創造することが出来る地域になっているか。
- ④ さりげなく見守れる体制をつくりたい。
- ⑤ 青葉台6・7丁目在住の一人暮らし高齢者、青葉台サロンに今まで通っていたのですが、だんだん坂道を越えていくのがつらくなる。近くにサロンがあったらいいのになあ。
- ⑥ 地域で健康体操を広められるとよい。
- ⑦ 顔見知りでないのでもいい返事が聞けない。
- ⑧ ダイアパレス在住の高齢者、管理棟でカラオケサークルをつくりたいのだが、近所迷惑だということで作れない。残念だ。
- ⑨ 開催する場所がない；開催に必要な予算がない；計画立案する人がいない；実際に行動する人がいない

住民の日常生活

- ① 買い物「買い物代行」モデル活動に参加し、本格稼働に向け協力する
- ② 一人暮らしのため認知症が進む方が増えている
- ③ 買い物や病院への送り迎えに困っている。予算がないので業者へは依頼することが出来ない
- ④ 高齢でしかも体力のない人が日常の買い物に不自由している。これからは庭の手入れにも支障が出る。
- ⑤ 車に乗れないのでこまる。体がよわったので。
- ⑥ 80歳以上の一人暮らし女性。病院予約、通院するのに足がない。いつもは知人に依頼するのだが、知人の用事があるときは迷っている。
- ⑦ 買い物、病院へ行く足がない。
- ⑧ 一人暮らし、引きこもりの人がいる。
- ⑨ 日常の生活資金に困っている；高齢となり収入がない年金生活である
- ⑩ 一人暮らしのため、話し相手がない高齢者がいる；足腰が弱く、病気がち外出がしんどい；高齢となり人が信じられない
- ⑪ 高齢者一人暮らしでゴミステーションが遠く、ゴミ出しが大変
- ⑫ 高齢者一人暮らしで免許証は持っているが認知症があり帰宅できなくなった時、親族の連絡先がわからず困った
- ⑬ マイカーを持てず（免許返上等で）移動手段が限られるので外出しづらい〈買い物弱者〉
- ⑭ 相談窓口；身近に相談できる人
- ⑮ 認知症の家族が気楽に相談したり家族が話し合える場所があまりない。
- ⑯ 子育て支援
- ⑰ 自分が急に具合が悪くなった時とか急用の時、すぐ子供を預けられる制度がないので困る
- ⑱ ご主人の転勤で姉崎に来たので、この辺りがわからないし車もないので、子供を遊ばせる場所が遠くて困っている
- ⑲ 85歳前後の人が運転している。ほかに交通手段なし。
- ⑳ 高齢で一人暮らしが民生委員の訪問を嫌がる人もいる。どのようにして守るべきか。
- ㉑ 隣人との付き合いがほとんどないひとり暮らし高齢者

- ② 家族はいるが、昼間帯はひとり暮らし高齢者と同じ
- ③ 75歳以上だと保険関係の書類に3親等の人が同席しないといけない
- ④ 体力づくりの手助け 病院通いを少なくする為に（体操教室・散歩・その他）
- ⑤ 日中ひとり暮らし高齢者をどうしたらよいか
- ⑥ 高齢者の声かけ見守り
- ⑦ 訪問を嫌がる独居者
- ⑧ 日頃の生活に余裕がない；ともばたらき、シングル母、シングル父の増加がある；子供の部活地域スポーツ団体に目が向いている

地域の安心・安全

- ① 空き家；管理全般
 - イ） 見知らぬ人が出入りしても感知不可
 - ロ） 個人情報保護の観点で、第三者への開示禁止
- ② 連絡先不明
- ③ 地域の防犯パトロールに人手不足
- ④ 災害時の支えあい 助け合いをどうしたらよいか
- ⑤ 子どもの下校時に見守り声かけ

地域の環境

- ① 町内公民館、バリアフリー化
- ② 子どもの遊び場が少なく、人の目につくところにあるとよい
- ③ 空き家；管理全般
 - イ） 倒壊危険、飛散物での怪我、衛生面での悪影響など・・・
 - ロ） 景観不良
 - ハ） 植栽の不整備、通行路へのはみ出し～視野妨害トラブル
- ④ きれいな生活の為に、道路やゴミ捨て場などをきれいにしたい。

地域資源の連携

- ① 福祉サービスの対象者；福祉活動の対象者数を理解したうえで、どこまで福祉サービスが行き届いているか常に見張っているか。
- ② 相談窓口；町会でやるべきことの洗い直し
- ③ 緊急時；災害時要支援者については、町会認識があり。だが、市の認知については、「避難行動要支援者名簿登録」要請にゆだねる形態になっている。
- ④ 高齢による町会退会
- ⑤ 緊急時
- ⑥ 避難訓練の事前通知による参加促進
- ⑦ イベント情報の提供；記事版（ポスター）等による参加呼びかけ
- ⑧ 見守り支援希望；要望に対応している民生委員・児童委員さんの協力を今後継続していただきたい。
上記対策を実施しているが、目立った効果は現在まで現れていない
- ⑨ 通いの場の実現させるためにアネッサに恒常的な施設をつくる；月単位に実施するプログラムを作成；お世話をする人を置く；指導員を呼ぶ
- ⑩ 通い場を実現させる そのために：活動の中心的場所；活動の中心になる場所；活動の中心になる物；カラオケ；将棋；囲碁；麻雀等を用意
- ⑪ 健康寿命を延ばす手助け；老人グループ間、交流促進

地域づくりの推進基盤

- ① 町会行事に参加しない
- ② 相談窓口；各町会に相談員を指名
- ③ ボランティアをしてくれる人材がいない。高齢化で。
- ④ 自分へのメリット・デメリットの計算高い人が多い・地域の活動が目に見えてこない
- ⑤ 避難支援者がいない（現在、要支援者5名）
- ⑥ 自己中心の人が増加；団体の手がなくても自分一人に対応ができる；人と人、隣近所との付き合いがめんどくさい
- ⑦ 町会・NW・福祉・子育ての目的、役割が見えない
- ⑧ 高齢者のみでの居場所づくりがほしい
- ⑨ 町会未加入コミュニケーション不足 ※回覧板を回していない
- ⑩ 町会行事
班長（役員）イ）従来の輪番制が維持できないブロックあり；参加年齢層 イ）若い世代（生産人口）の参加が少ない。
対応策 イ）戸別訪問によるイベントへの参加促進 ロ）小学校低学年世帯への積極的な呼びかけ

福祉活動を担う組織について

- ① 個々の活動の総括；敬老会が中止された理由、同じことを繰り返さないために総括が必要だが、過去どのような運営をしてきたので、中止になったのか
違った価値観、文化等を取り入れて新しい進んだ価値観を創造できているか
- ② 定期的な振り返り；どのような組織、活動でもその成果を計測し、まずいことはなかった振り返る必要があるが、今後改善点はないか検討する機会を定期的に設けているか。
- ③ 社協茶話会のシステムを変える（出席者が積極的に自分のことをする）
- ④ 奥さんに先立たれた高齢者、奥さんの生前来ていた和服を片付けたいのですが、どうしたらよいかわからない。
- ⑤ 町会に加入する人が減っている。
無関心層が増えている
余暇・遊びが充実しこのような活動に興味を示さない
- ⑥ 自治会館を気軽に利用できる様なシステム作りはないか
- ⑦ 町会役員の高齢化が進む、一方で次の役員のなり手が少ない
- ⑧ 多様な趣味に対応した組織の在り方
- ⑨ 多様性の時代に即応；多様性が重視される社会にあって、多様なものの見方、生活習慣、文化、価値観を受け入れられる社会になっているか。

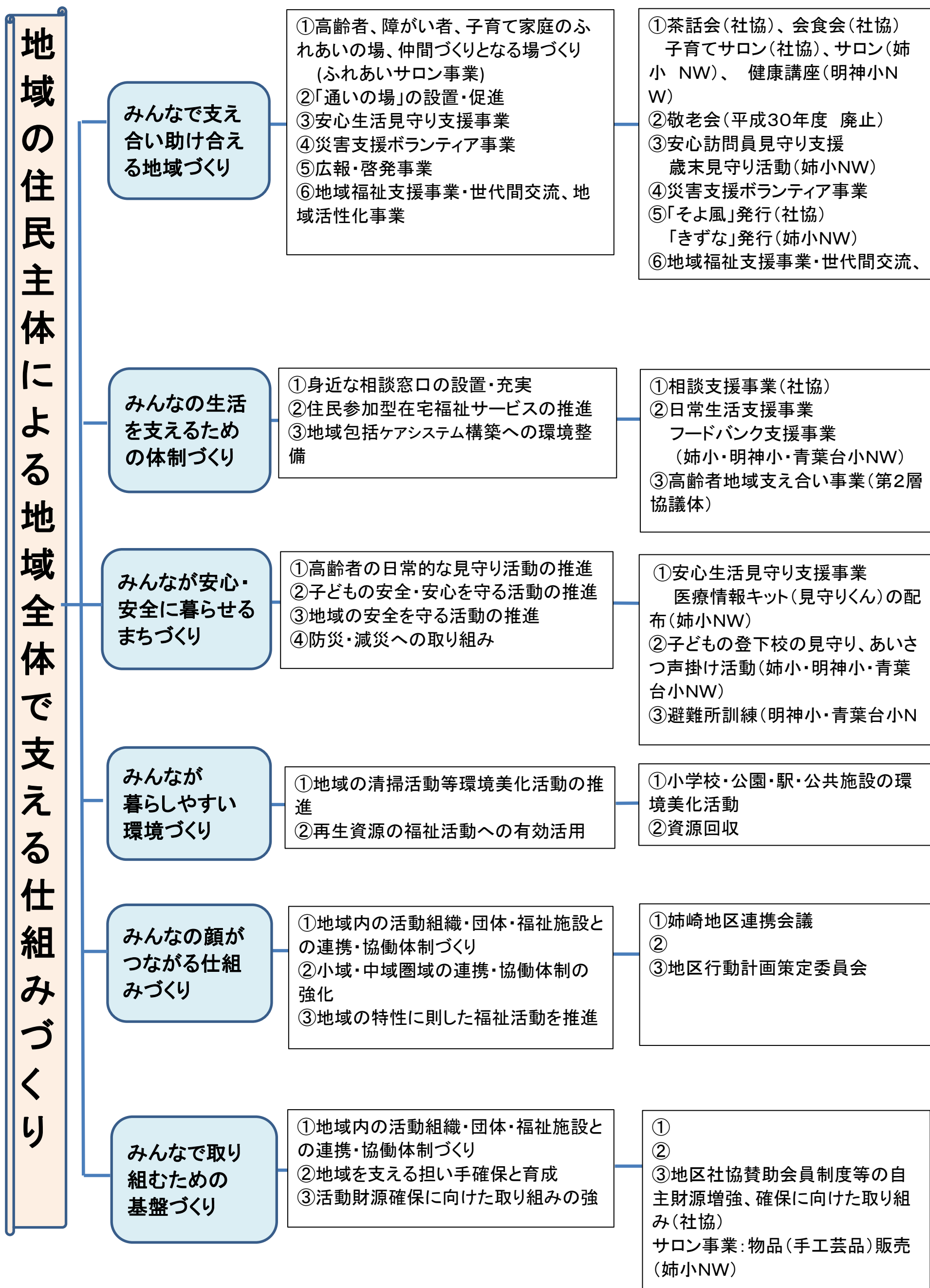
(2) 計画の体系シート

【基本理念】

【基本目標】

【取り組み方＝私たちの活動・事業】

【実施中の活動・事業】



4. 事業実施計画書

以下の事業は、目標に向かい、「姉崎地区社会福祉協議会」と「小域福祉ネットワーク」等が地域の皆様とともに取り組む事業です。

(1) みんなで支え合い助け合える地域づくり

【基本目標1】

みんなで支え合い助け合える地域づくり

取り組み・事業名		実施主体	新規 継続	事業目的及び内容	今後の取り組みの方向性	年度・期別目標（開催回数・会場数・参加者数値など）			
						平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
ふれあいサロン事業 ふれあいの場、仲間づくりの場の推進	子育てサロン	地区社協 子育て家庭支援員協議会 主任児童委員	継続	子育て家庭の親子を対象に、ふれあいの場や仲間づくりの場を提供し、育児に関する不安や悩みを解消するために開催する。 ・開催日：毎月第3金曜日10:30～12:00 ・会 場：姉崎公民館	参加希望者の増、会場収容員数、また、地域性を考慮し、会場数を増やしていくことを検討する。	平成29年実績 年12回 547人	充 実	拡 充	
	ふれあい会食会	地区社協 民生児童委員協議会 食生活改善協議会	継続	一人暮らしの高齢者などを対象に、ふれあいの場を提供し、閉じこもりを防止、生きがいづくりや健康の増進を支援するために「会食会」を開催する。 ・開催日：毎月第4水曜日10:30～13:30 ・会 場：姉崎公民館 イベント：健康体操、脳トレ、レクリエーションなど	・より楽しめる、健康の増進が図れるようなイベントを企画する。 ・ボランティアの充実	平成29年実績 年12回 678人	充 実	拡 充	
	茶話会	地区社協 更生保護女性会	継続	茶話会 ・会場数を増やすとともに、自主運営ができるような体制を検討する。 ・世代間交流が図れるようなあり方を検討する。 ・ボランティアの充実 開催日：毎月第2金曜日13:00～14:00 ・会 場：アネッサ	・会場数を増やすとともに、自主運営ができるような体制を検討する。 ・世代間交流が図れるようなあり方を検討する。 ・ボランティアの充実	平成29年実績 年12回 354人	充 実	拡 充	
	高齢者サロン	姉小ネットワーク	継続	交流会・健康講座（健康寿命を延ばす施策）	後継者の育成		充 実	拡 充	
		姉小ネットワーク	新規	「歩こう会」	「通いの場」事業に繋げる	4/26 実施	継続・「通いの場」へ展開		
	健康講座	明神小ネットワーク	継続	高齢者向け健康体操・茶話会					
高齢者の日常的な見守り活動の推進	地域福祉支援事業	姉小ネットワーク	継続	歳末の見守り訪問活動	「見守り支援事業」に繋げる	充 実	制度変更を検討		
	見守り活動	姉小ネットワーク	新規	安心生活見守り支援事業	「安心訪問員」活動	調査・検討	実施	3月6日「安心訪問員」基礎研修受講 6月スタート(6名対象)	
	見守り活動	青葉台小ネットワーク	継続	見守り声かけ活動					
						30年度・月別目標（開催回数・会場数・参加者数値など）			
						1期 ～6月	2期 ～9月	3期 ～12月	4期 ～3月
(新しい高齢者支援事業) 市原市住民主体の「通いの場」補助事業	通いの場	地域住民	新規	高齢者の方々が「日常的」に、「お住まいの地域で」、「地域の方々とふれあう」ことが出来る場をつくる。高齢者が気軽に集まる地域交流活動の機会を作る。介護予防の効果を高める。地域社会への参加を促進。	地域住民が主体となって、地域にある集会所などを活用して、体操などの軽運動や、お茶を飲みながらの歓談、趣味活動など、様々な活動を行う。	計画・申請	実 施		
							充 実	拡 充	

4. 事業実施計画書

以下の事業は、目標に向かい、「姉崎地区社会福祉協議会」と「小域福祉ネットワーク」等が地域の皆様とともに取り組む事業です。

(2) みんなの生活を支えるための体制づくり

【基本目標2】

みんなの生活を支える
ための体制づくり

取り組み・事業名		実施主体	新規 継続	事業目的及び内容	今後の取り組みの方向性	年度・期別目標（開催回数・会場数・参加者数値など）			
						平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
身近な相談窓口	相談支援事業	地区社協	継続	地域住民が気軽に相談できる窓口を設置し、相談員を配置し、専門的な相談内容については、市社協または、関係機関に繋げる。 ・相談窓口：「アネッサ」 ・開設日：第1水曜日 13:00～16:00	事業内広報に努めサロンや茶話会などで紹介する体制を整える。専門の相談員を核をできるか？	継続 ・ 広報活動の展開			
住民参加型在宅福祉サービス 日常生活支援事業		地区社協	新規	公的サービスでは補えない日常生活上の生活課題を解決するため、有償による住民相互による支え合い・助け合い活動を推進する。	・ニーズ調査を行ったうえで、買物支援活動（ツアー）を検討していく。	制度設計	実施	拡 充	
	高齢者買い物代行支援	青葉台小ネットワーク	新規	食料品や日用品などの買い物が困難な状況に置かれている高齢者の支援を行う。	地域住民のニーズ把握をし、実態に合わせた活動を推進していく。	モデル実施	継 続 ・ 情 報 収 集 ・ 充 実		
	フードバンク	姉小ネットワーク	継続	品質に問題がないのに廃棄せざるを得ない食品を、企業・団体・個人から寄付してもらい、必要としている人に無償で届けるボランティア活動		継 続・拡 充			
		明神小ネットワーク							
		青葉台小ネットワーク							
高齢者地域支え合い事業 （第2層協議体設置・運営）		地区社協	新規	高齢者を地域全体で支える仕組みづくり（地域包括ケアシステム）に向けた「話し合いの場（第2層協議体）」の設置及び運営の推進を行う。	市社協、市原市と連携した仕組みづくりに向けた環境整備や、第2層協議体を活用した生活支援活動等の体制整備に取り組む。	検討・設置	推 進		

4. 事業実施計画書

以下の事業は、目標に向かい、「姉崎地区社会福祉協議会」と「小域福祉ネットワーク」等が地域の皆様とともに取り組む事業です。

(3) みんなが安心安全に暮らせるまちづくり

【基本目標3】

みんなが安心・安全に
暮らせるまちづくり

取り組み・事業名		実施主体	新規 継続	事業目的及び内容	今後の取り組みの方向性	年度・期別目標（開催回数・会場数・参加者数値など）			
						平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
安全・安心を守る活動	子どもの （登下校の見守り・あいさつ、声掛け活動）	姉小ネットワーク	継続	・登下校時の見守り活動 安全確保に努めるとともに、あいさつの励行を呼びかける	・基本的には継続 学校との協議・調整をしながら取り組む。 ・担い手の確保を進める必要がある。	登校日は全て	継続 ・ 学校との連携		
		明神小ネットワーク							
		青葉台小ネットワーク							
	安心生活見守り支援事業	姉小ネットワーク	継続	一人暮らしの高齢者へ医療情報キット（見守り君）の配布し、消防局とも連携	昼間、独居や夫婦とも高齢者にこの制度を広げるか？		継続 ・ 学校との連携		
地域の安全を守る活動の推進	防犯パトロール	市原市防犯協会 姉崎支部	継続	JR姉崎駅周辺のパトロール（毎月、最終金曜日）	現状の取り組みを継続する		継続		
		各町会・自治会	継続	集計の現在値 延べ参加人員35149人	現状の取り組みを継続する		継続 ・ 学校との連携		
災害発生時の安全を守る活動の推進	避難所訓練	姉崎地区町会長会	新規	地区町会として、「防災」をテーマとして活動 今年度は「避難所訓練」の実施を計画中	「スフィア基準」研修会を検討中	調査・検討	他団体との連携 ・ 実施		
		明神小ネットワーク	継続	避難訓練の実施	現状の取り組みを継続する		継続 ・ 学校との連携		
		青葉台小ネットワーク	継続	避難訓練の実施	現状の取り組みを継続する		継続 ・ 学校との連携		

4. 事業実施計画書

以下の事業は、目標に向かい、「姉崎地区社会福祉協議会」と「小域福祉ネットワーク」等が地域の皆様とともに取り組む事業です。

(4) みんなが暮らしやすい環境づくり

【基本目標4】

みんなが暮らしやすい
環境づくり

取り組み・事業名	実施主体	新規 継続	事業目的及び内容	今後の取り組みの方向性	年度・期別目標（開催回数・会場数・参加者数値など）			
					平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
地域の清掃活動等環境美化活動の推進（小学校・公園・駅・公共施設の環境美化活動）	姉小ネットワーク		地域住民の参画を得て、学校、通学路、公共施設等の地域の環境美化・整備を行うことによって地域環境の向上とともに、住民の環境に対する意識、連帯感の向上に繋げる。	担い手を確保するとともに住民参加を呼びかけ、また、学校との連携を強化していく。	調査・検討			
	明神小ネットワーク							
	青葉台小ネットワーク							
再生資源の福祉活動への有効活用 （資源回収）	地区社協	新規	定期的に資源回収を実施し、福祉活動の財源確保とともに、住民の福祉活動への理解促進に繋げる。	地域住民の一層の理解を深め、収益拡大に繋げる。	調査・検討			
	青葉台小ネットワーク	継続						
	回収資源量・種類・協力者の拡大 / PTA他地域との関係の見直し							

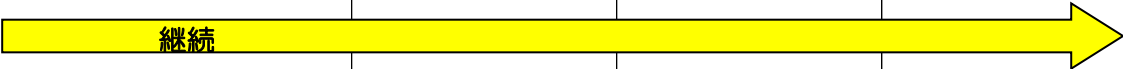
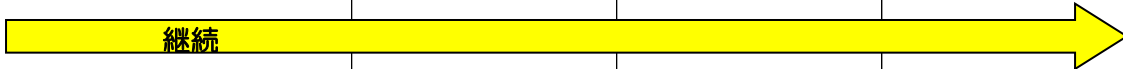
4. 事業実施計画書

以下の事業は、目標に向かい、「姉崎地区社会福祉協議会」と「小域福祉ネットワーク」等が地域の皆様とともに取り組む事業です。

（５）みんなの顔がつながる仕組みづくり

【基本目標5】

みんなの顔がつながる
仕組みづくり

取り組み・事業名		実施主体	新規 継続	事業目的及び内容	今後の取り組みの方向性	年度・期別目標（開催回数・会場数・参加者数値など）			
						平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
活動組織・団体、福祉施設等との連携・協働体制づくり	連絡協議会	地区社協	継続	地域で活動する組織・団体や福祉施設と連携し、専門的な相談対応、また、地区社協としての活動の幅を広げる。	地域の社会福祉施設に協働事業を呼びかけ施設との関係強化を図る。	2017年11月24日 有秋地区社協と連絡会議を実施			
						継続 			
地区行動計画の推進	地区行動計画推進委員会	地区社協	継続	地域の特性に即した福祉活動を推進するための地区行動計画の具現化	地区行動計画推進委員会を開催し、計画の進捗状況の確認と評価を実施				
						継続 			

4. 事業実施計画書

以下の事業は、目標に向かい、「姉崎地区社会福祉協議会」と「小域福祉ネットワーク」等が地域の皆様とともに取り組む事業です。

(6) みんなで取り組むための基盤づくり

【基本目標6】

みんなで取り組むための基盤づくり

取り組み・事業名	実施主体	新規 継続	事業目的及び内容	今後の取り組みの方向性	年度・期別目標（開催回数・会場数・参加者数値など）			
					平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
担い手の発掘と育成 （人材育成事業）	地区社協	新規	地域福祉活動に取り組む新たな担い手となる人材の発掘や育成に向けた取り組みを推進する。	・地区社協事業に住民（ボランティア）の参画を呼びかけ、担い手の発掘に繋げていく。	調査 検討	平成30年10月実施予定 ・ 継続		
活動財源確保 （賛助会員の拡充）	地区社協	継続	地区社協が行う地域福祉活動・事業の充実・強化を図るための財源確保のため「賛助会員」制度の拡充を図る。	・地域住民や関係組織・団体に広報紙やチラシを町会回覧し、地区社協活動・事業の周知、理解の促進を図り、会員拡大に繋げる。 ・地区社協理事及び評議員が所属する団体への会員募集の働きかけを強化する。				
広報活動	地区社協	継続	広報・啓発活動の推進	広報誌「そよ風」の発行 年2回 11500部発行	継続 ・ 充実			
	姉小ネットワーク	継続	広報・啓発活動の推進	広報誌「きずな」の発行 年4回 600部発行	継続 ・ 充実			

(7) 平成30年度姉崎地区社会福祉協議会の研修計画

1、防災教育、災害発生後の地区社協として取るべき行動を学ぶ 5月～7月 対象者：姉崎地区社協理事、地域住民

目的 地震発生時の隣接工場による姉崎地区への影響、また発災後の空白期での社協として取るべき対応について研修を受ける

- ①石油化学工場を中心とした工場群と隣り合わせの姉崎地区であり巨大地震発生時の姉崎地区への影響と災害後の地区住民へのフォローを行う場合の地区社協として取る行動のレクチャーを受ける
- ②地震発生直後は町会・市中心の対応となるが、少し地震の影響&発生が落ち着くと対応者は自分の住む町会に帰り、避難者へのフォローする人が少なくなると予想される。
- ③姉崎地区社協も3小域NWに分かれ、市指定避難場所も3か所に分散、町会、市危機班対応も無制限でない、熊本地震を教訓に姉崎地区社協の防災本部を 何処に、誰が、いつ、設置するのか、人の問題、連絡の問題、
- ④災害避難生活者への対応、及び緊急応援物資の受付、振分け、運搬、輸送手段、ボランティア者への対応方法

講師 ①災害発生現場で実際に活動したその中で得た知識、経験を持った賢人より実体験・知識のレクチャーを受ける

- ②東日本大地震、熊本地震、長野地震などで防災活動を経験した人、又は 防災ボランティア活動の先進地域、

※「災害支援ボランティア事業」として申請予定

2、将来の福祉に関する取り組み項目についての知識の習得 8月～10月 対象者：姉崎地区社協理事、地域住民

目的 姉崎地区は今後福祉の街を目指す為にも弱者と呼ばれる人達への対応について研修を受ける、

- ①生活困窮家庭、ひとり親家庭、ひとり暮らし高齢者、及び 、認知症、及び障がい者等” への対応
- ②子育てへの対応、将来を担う子供達の育成の重要点、取り組み方法、についてどうしたら良いか学ぶ。

講師 ①専門家、具体的に行動している経験者、優れた他団体の賢人を迎えての講演会、訪問しての検討会

3、近隣の地域社会福祉協議会との連携会議・交流会の開催 12月～2月 対象者：姉崎地区社協理事、希望者

目的 近隣の団体、又は優れた活動の福祉団体、協議会との連携会議、交換交流会を開き、

- ①双方で取り組んでいる特徴ある事業項目の紹介、悩んでいる項目のヒアリング
- ②先進町会/団体、災害被災地、実体験訓練できる地域との交流、意見交換
- ③研修&連絡会議、及び最後に懇親会を開き友好を強める、

開催法 ①半日／一日で研修会と懇親会を開催する、例：13時～17時研修、17時～懇親会を開催する

5. 計画の進行管理

この計画の進行管理については、地区行動計画策定作業にあたった「地区行動計画策定委員会」のメンバーを主体に再構成する「姉崎地区行動計画推進委員会」で行います。

この推進委員会では、計画の目標を達成するための取り組みや活動・事業の推進に向けた具体的な方策を検討するとともに、計画全体の進捗状況を確認したうえで評価し、必要に応じて計画の見直しを進めます。

6. 資料編

(1) 計画策定経過

開催日	内 容
平成29年 10月27日	姉崎地区社協正副会長会議 ・市社協と方向性の協議
11月 4日	第8回姉崎地区社協常任理事会 ・方向性の協議 ・策定委員会（案）の作成
12月 1日	平成29年度第2回姉崎地区社協理事会 ・地区行動計画の趣旨説明 ・策定委員会（案）の承認
12月13日	第1回行動計画策定委員会 ・方向性の協議 ・基本理念の検討
平成30年 1月22日	第2回行動計画策定委員会 ・地域課題の抽出
2月13日	第3回行動計画策定委員会 ・地域課題の抽出 ・基本目標の検討
4月19日	平成30年度姉崎地区社協定期総会 ・地区行動計画策定の進捗状況について報告
5月29日	第4回行動計画策定委員会 ・原案に対する意見集約
6月30日	平成30年度第1回姉崎地区社協理事会 ・原案の上程

(2) 姉崎地区行動計画策定委員会委員名簿

	氏 名	所属団体
1	相川 敏子	姉崎地区社会福祉協議会
2	桃尾 英宣	町会長会
3	吉成 正司	町会長会
4	脇田 靖	小域福祉NW（姉崎）
5	川又 昇造	小域福祉NW（明神）
6	黒川 実男	小域福祉NW（青葉台）
7	川上 孝江	民生委員児童委員協議会
8	桐谷 徹	民生委員児童委員協議会
9	刈米 義文	民生委員児童委員協議会
10	水田 葉子	子育て家庭支援員協議会
11	藤沢 朝代	子育て家庭支援員協議会
12	中西 静子	更生保護女性会
13	本多 みつ子	更生保護女性会
14	佐藤 繁	地域福祉推進部会
15	岩撫 幸子	市原市高齢者健康体操普及員
16	鈴木 久美子	市原市高齢者健康体操普及員